

# 来週の '売り物'、記事はこれ



2016年1月8日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## シベリア抑留 北緯 69 度に建つ日本人慰霊碑

10日(日)



「どうかこの折り鶴に乗って故郷にお帰りください」。旧樺太で終戦を迎えた東京都八王子市の渡辺祥子さん(74)は、ロシア北極圏のノリリスクに日本人慰霊碑=写真=を建て、昨年10月に現地で完成式典がありました。旧ソ連が日本兵、軍属、民間人を收容し、強制労働に従事させたシベリア抑留は最長で1956年まで続き、約6万人が死亡したとされます。中でも、1月の平均最低気温が氷点下36度に達するノリリスクの收容所は最悪の生存環境だったといわれます。帰還かなわず、渡辺さんの父はその地で倒れました。慰霊碑建設を思い立って11年。「六十の手習い」というロシア語学習から始めた渡辺さんの一途な思いに、やがて日露両国の人々が共感しました。今も「閉鎖都市」に指定され、外国人の立ち入りが制限されたノリリスク。そこに慰霊碑を建てるという困難な計画に懸けた渡辺さんの思いと、それを支えた人々の姿を追いました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

年の初めにあなたは何を願いましたか？

## パワースポットを訪ね、記者も一緒に開運祈願

夕刊2面特集ワイド 12日(火)



今年こそ恋愛成就を、仕事の業績を伸ばしたい……。新年のスタートにあたって、自分の目標達成に向けた決意を新たにされた方も多いでしょう。そんな時、誰もが考えるのが、運気を上げ、元気にしてくれるものが欲しい、ということではないでしょうか。実際、東京都内の「パワースポット」を訪れてみると、大勢の人たちが列を作っています。人々はそこで何を感じ、何を願っているのでしょうか。都内で人気のスポットを巡り、一緒に感じてみました。

## 全国高校ラグビーフットボール大会決勝

11日(月・祝) 午後2時開始

高校ラグビー日本一の座を決める「第95回全国高校ラグビーフットボール大会」(毎日新聞社、日本ラグビーフットボール協会など主催)の決勝が11日午後2時、東大阪市花園ラグビー場でキックオフされます。決勝は、2年ぶり4回目の優勝を目指す東海大仰星(大阪第1)と5年ぶり2回目の優勝を目指す桐蔭学園(神奈川)の対戦。2年前の決勝の再現となります。準決勝で前回優勝の東福岡を24-22で破った東海大仰星と、石見智翠館(島根)を46-31で退けた桐蔭学園。準決勝までで既に過去最高の入場者数を記録した花園から、実力伯仲の両校の激戦を詳しくお伝えします。



「米團治の粋な噺で行きましょう」

おんたのしんぶん  11日(月)



2カ月に一度連載中の落語家・桂米團治さんがホスト役を務める対談コーナー。今回のゲストは、女優の藤原紀香さん=写真=です。聞き上手の米團治さんが正月の過ごし方から今年再演されるミュージカルの話、気になるウワサの彼の話までうまく引き出してくれました。紀香さんも丁寧に話いただき、いつも以上に明るく楽しい対談になっています。ぜひ、ご一読を！

## 衣・不用な傘のリメイク くらしナビ面 12日(火)

日本で1年間に消費される傘は約1億3000万本。大半が使い捨てにされています。壊れた傘や忘れ物の傘を集めてリメイクしている宮城県気仙沼市のデザイナー、HOUKOさん(30)は「必要以上に買うのをやめ、使わない傘をリメイクすれば環境にも優しい」と話します。今回は簡単に作れるランチバッグと部屋の飾り「ガーランド」の作り方を習いました。



## 空間集約「減築」で快適に くらしナビ面 13日(水)



元の家屋を生かしながら、住宅をコンパクトに造り替える「減築」が注目されています。かつては改築といえば増築が主流でした。しかし、少子高齢化や人口減少で世帯規模は小さくなり、高齢者の単身や夫婦だけの世帯は今や全体の2割を超えます。使わない部屋を持て余す人は多いのです。生活空間を集約し、暮らしの負担を減らす効果が期待できる減築を紹介します。

**再婚禁止期間[最高裁判決]に異議あり！**

### 「民法の規定が無戸籍児童問題の元凶だ」

オピニオン面 [そこが聞きたい] 13日(水)

女性だけに離婚後6カ月の再婚禁止期間を定めた民法の規定について、最高裁は昨年末、<100日を超える禁止期間は違憲>と判断しました。しかし、まだまだ不十分だと指摘する声も少なくありません。とりわけ、無戸籍児童の支援活動に取り組んでいる人たちのあいだから、禁止期間の規定そのものを撤廃すべきだという声が上がります。

「無戸籍児家族会の会」代表、井戸正枝さん(50)は言います。「推計1万人の無戸籍者のほとんどは、民法の再婚禁止期間の条文が原因です」と訴えます。その主張の向こうに、日本の家族のかたちの「激変」に、法が追いついていない実情が立ち上ります。

時代が見える――。

今年もオピニオン面にご期待ください。



## 戦争をモチーフに

朝刊文化面 16日(土)



「おそらくは最期の長編」という小説「モノダの領域」を刊行した作家、筒井康隆さんが「創作の原点」に登場。今までの集大成的な作品で、戦争のおろかさを語る部分もある。終戦を迎えたのが11歳、小学生の時だった。デビューして以来、「東海道戦争」「ベトナム観光公社」など戦争をモチーフにした作品も多い。作家は戦争をどうとらえ、何を生み出してきたのか、その道程を聞いた。

# 小学生新聞

小学生新聞 来週の

「売り物」、記事はこれ！

毎日小学生新聞は今年、創刊80年を迎えます。新企画やコラボ企画が目白押しですので、どうぞお楽しみに！ まもなく阪神大震災から21年を迎えるにあたり、12日から阪神大震災その後取材した企画を3回にわたりお届けします。12日は兵庫県県の保育園での竹とうろう作り、13日は京都の小学校の防災教育、15日は1・17のつどいをどう引き継ぐか…をお伝えします。14日は哲学者の内山節さんの新コラムが始まります。

